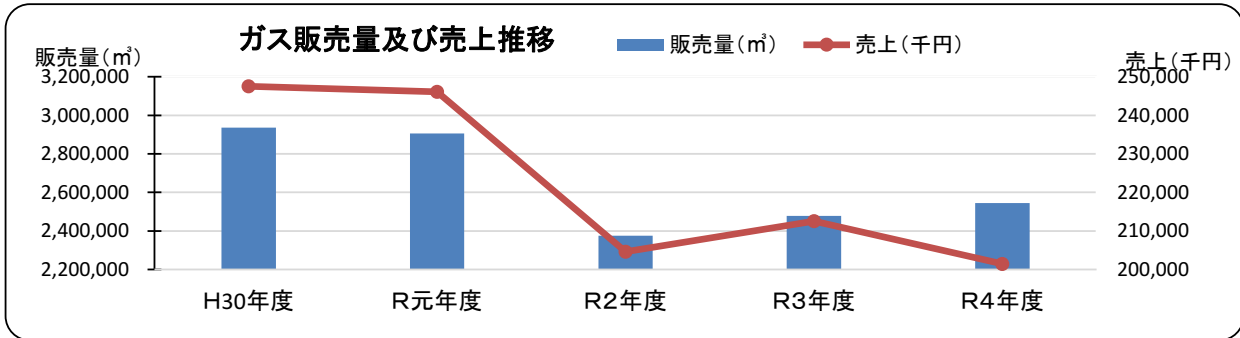
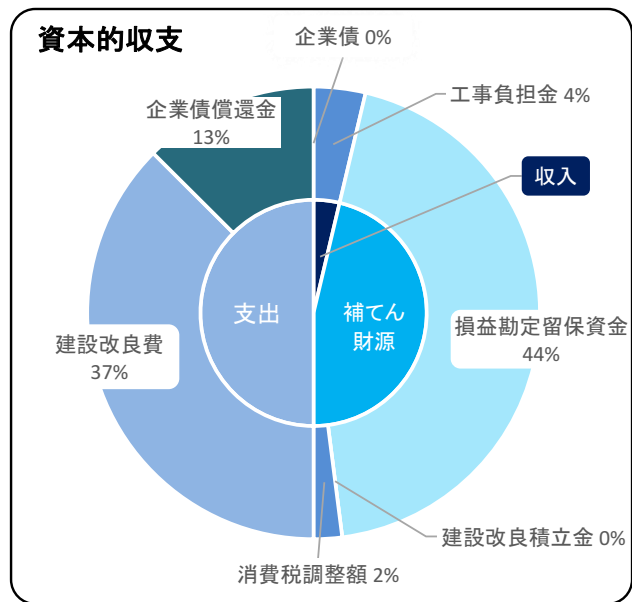
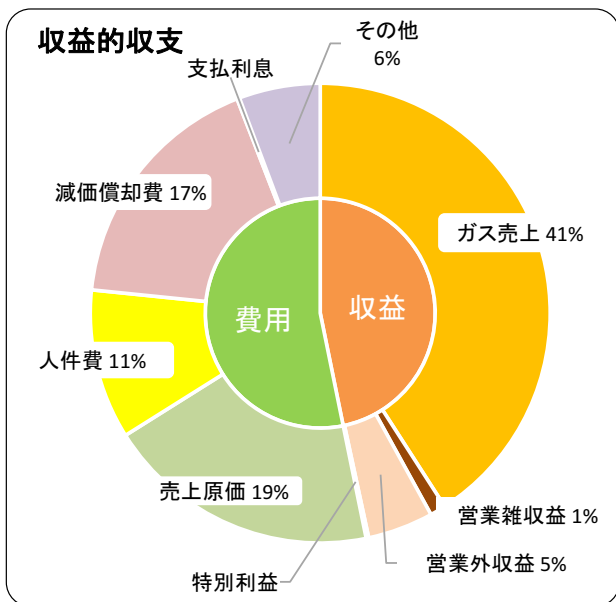


令和4年度白子町ガス事業特別会計決算概要

事 業 概 要
<ul style="list-style-type: none"> ・ 年度末需要家件数 2,886件【年間累計数: 34,700件】 (対前年度 14件減少、年間累計 93件減少) ・ ガス販売量(9,200kcal) 2,545,177^m (対前年度 67,219^m増加) ・ ガス導管延長 120,588.5m (対前年度 16.4m増加) ・ 供給管本数 3,310本 (対前年度 9本増加)



収	支	予算額 (A) 千円	決算額 (B) 千円	増減額 (B)-(A)	対前年度比 (%)
収益的収支(税抜)					
ガス事業収益		255,076	230,517	▲ 24,559	100.4%
ガス事業費用		285,914	262,065	▲ 23,849	99.6%
当年度純利益(▲損失)		—	▲ 31,548	—	▲ 94.0%
繰越利益剰余金		—	0	—	—
その他未処分利益剰余金変動額		—	19,391	—	32.0%
当年度未処分利益剰余金(▲未処理欠損金)		—	▲ 12,157	—	▲ 144.9%
資本的収支(税込)					
資本的収入		22,628	4,653	▲ 17,975	15.5%
資本的支出		131,165	62,860	▲ 68,305	47.6%
差引不足額		—	58,207	—	63.4%



収支概要

収益的収支(税抜)において、収益では、行動制限の緩和等により商業用ガス販売量(前年度比 122.0%)が回復傾向に推移したところでありましたが、政府の激変緩和対策事業(1㎡あたり税込み30円の値引き)に参画した影響からガス売上は201,453千円(前年度比 △5.2%)、激変緩和対策事業に係る国庫補助金収入等の営業外収益22,741千円(前年度比 140.0%)を含めガス事業は230,517千円(前年度比 0.38%)でありました。

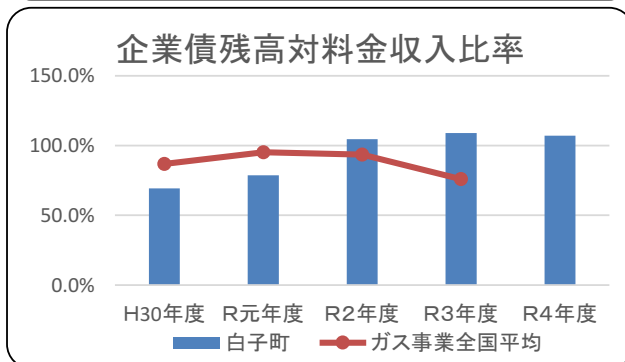
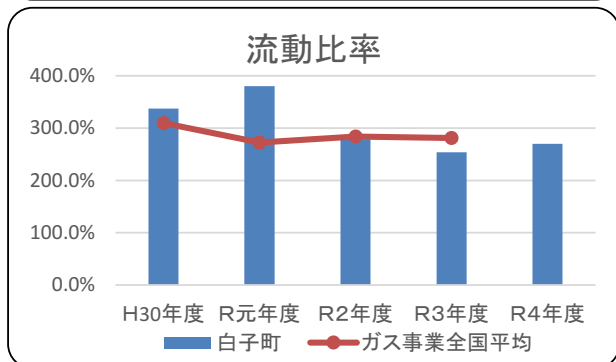
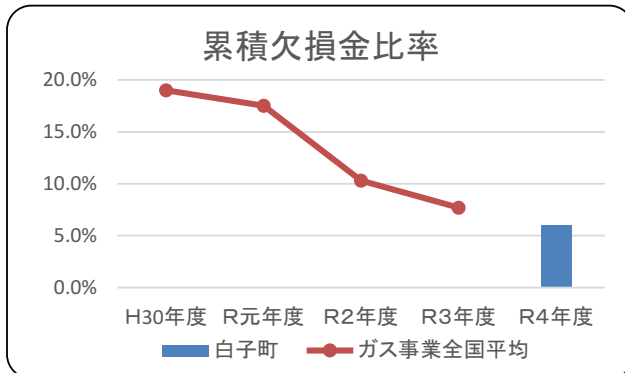
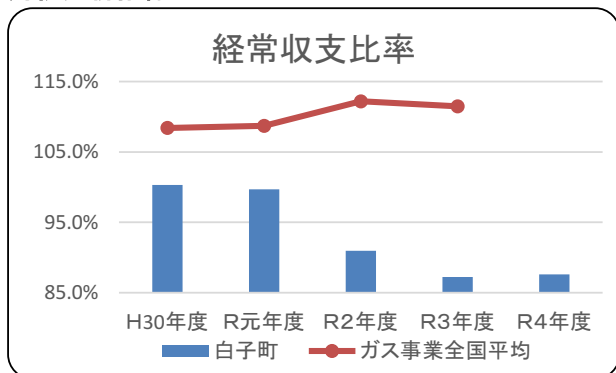
また、費用では、物価上昇に伴う引当金繰入額を見直し、特別修繕引当金(前年度比 42.9%)及び修繕引当金(前年度比 33.3%)が大きく増加しましたが、固定費等における経費削減効果の影響からガス事業費用は262,065千円(前年度比 △0.43%)でありました。

しかし、費用が収益を上回る結果から、純損失 31,548千円が生じ、利益積立金で補てんしきれない損失を未処理欠損金12,157千円として計上し、全額を繰越欠損金とする欠損金処理計算書(案)を議会に提出しました。

資本的収支(税込)からは、事業発注段階で遅れが生じ67,100千円(繰越額に係る財源として企業債20,000千円)を繰越額としたため、資本的収入は工事負担金 4,653千円のみ収入に対し、資本的支出では事業に遅れが生じた影響から 62,860千円の支出であったため、発生する不足額 58,207千円を消費税資本的収支調整額 2,544千円及び損益勘定留保資金 55,663千円で補てんしました。

剰余金処分	減債積立金	利益積立金	建設改良積立金	繰越利益剰余金	未処分利益剰余金 (未処理欠損金)
R4年度期首残高(A)	13,250千円	19,391千円	49,379千円	0千円	—
当年度純利益(損失)	—	—	—	—	(31,549千円)
当年度剰余金変動額(B)	0千円	19,391千円	0千円	0千円	19,391千円
R4年度期末残高(A)-(B)	13,250千円	0千円	49,379千円	0千円	(12,158千円)

財務分析指標



※ 令和4年度ガス事業における全国平均値の発表後に掲載します(9月21日現在)。

経営健全化判断比率

公営企業法の有無	算式	経営健全化基準	資金不足比率
有	$(\text{流動負債} + \text{建設改良に充てる企業債} - \text{流動資産}) / (\text{営業収益} - \text{受注工事収益}) * 100$	20.0%	—

※ 算出されない場合は「—」表示